

生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想

まちぐるみ教育とみんなの学校で実現する再生ヴィジョン

～概要版～



「みんなの学校」がまちの潜在力を発掘し
まち全体が学びの場となり、生野区独自の教育・産業・暮らし・福祉の場をつくる
みんなでつくり、みんなで学ぶ、
このまちだけの、未来の学校

「生野区西部地域学校再編整備計画」に基づき、生野区ではこどもたちの教育環境整備と、同時に生まれる学校跡地を有効活用することで「災害に強いまち」「『居場所』と『持ち場』のあるまち」「子育て世代に選ばれるまち」を目指しています。学校再編の議論と並行して学校は無くなるのではなく「みんなの学校」となり、多世代・多文化・すべての人が関わる生野区独自の「まちぐるみ教育」が実現するという構想を作りました。この構想を基に、区民のみなさんの声やアイデアを反映しながら校地ごとの「みんなの学校」を具体化していきます。

●空間資源である小学校

【小学校とは】

【学びとは】【学ぶ】大辞林より

全ての人々が参加可能で
「学び」を得られる場

経験を通して知識や知恵を
得ること

学びとは、年齢・立場によらず、
主体的なコミュニケーションから新しい知識を
得たり、発見したりすること

まちの空間、歴史、人、文化は、学びの宝庫
生野区ならではの「新しい学びのかたち（環境）」
をつくることから、生野区全体の再生を実現していく

人が集まる・知恵が集まる
学びたい気持ちが湧いてくる・誇りが生まれる

小学校という【学びの場】を活用した
まちの再生ビジョンを考える

●再生のアプローチ：みんなの学校とまちぐるみ教育



みんなで作る、
みんなで学ぶ、
このまちだけの、未来の学校



学校の周りには、年齢を問わず、様々な経験や知恵を持つ人たちがいる。空き家や、豊かな公園、産業もある。まちぐるみで得られる教育の拠点に「みんなの学校」がある。多様な大人に出会うことで、子どもたちは人生の幅を広げ職業選択の範囲を拡大する。それぞれの「みんなの学校」で様々な仕事と人生に出会える。それが「まちぐるみ教育」が生野区の子どもたちに与える新たな学びの環境である。生野区の空間資源と潜在力を、活かし・つなぎなおすことで、様々な“学び”に生野区の人々が関われる。子どもも大人も学びたい気持ちが湧いてきて、生野区全体が学びの場になる。生野区ならではの、暮らし・教育、仕事を育てることから、生野区全体の再生を実現していく。

●学校再編を機に目指す新しい生野の教育

	従来の教育と学校	新しい教育 まちぐるみ教育とみんなの学校
	教育は 教育施設の中で行うことが多い	まちの潜在力をつなぎなおすことで、まちのあらゆる場所が 学びの場となり人はあらゆる場所や学校と関われる
どこで学べる	学校、塾、スクール等	まちのあらゆる場所
誰が学ぶ	誰でも。 ただしお金を払って学ぶことが多い	誰でも。 ただしお金を介さない相互の学びもある
いつ使える	決められた時間、 もしくは事前に決めた時間	決められた時間、 事前に決めた時間だけでなく、土日含めいつでも学べる機会もある
なぜ通う	義務教育・受験等のため、 自己実現のため	義務教育・受験等のためだけでなく、地域の人と交流ができるため、 学びたいことが学べるため
何を学べる	教科や自分が選んだテーマの学び	教科や自分が選んだテーマの学びだけでなく、地域の技術や文化を 地域の人から学べる。新たな学びを発見し、気づきが得られる。 学びたいことがみつかる。 教わるだけでなく、学んだことから新たな実践もできる
誰と学べる	主に同じ属性の人と学ぶ いわゆる先生から学ぶ	同じ属性の人だけでなく、多世代・多国籍の人と学べる 地域の人から学べる

「みんなの学校」のまちへの影響

「みんなの学校」とまちが連携し、まちぐるみ教育ができていくことで、様々な機会・価値がうまれていく

食の学校の場合

地域福祉を担う

- 料理や食文化の知恵・スキルを持った留学生や高齢者の社会参画
- デリバリーサービスによる高齢者への配食

新たな便益や繋がり の創出

- 多世代、多国籍での交流機会の創出
- 既存飲食店人材の知恵や技術を活用

市民の社会参画を促す

- プロやアマチュアも料理を教える / 教わる
- 多国籍の料理を気軽に食べれる、出店、創作、調理等の多様な参画と可能性

新しいタイプの教育 学びの質の創出

- 食を通じた多世代・多国籍交流と教育と遊び場
- 自ら調理したり食・エンタメ事業を実践できる学び

地域の魅力・価値の 向上につなげる

- 新ジャンルのアジアの多国籍料理発信拠点のまちとしてブランディング

人口の増加・産業の創出

- 賃貸住宅により、まちにトリアルスステイを行う
- 食の新規事業を試せる場
- 留学生や学生が、まちの飲食店で働ける機会を創出

防災機能の充実

- 災害時にも美味しい食事を提供できるキッチンと非常食を常備できる大型の冷蔵庫
- 遠隔地にも食料を届けるフードトラック

「みんなの学校」における公的スペースの活用案

既に学校内で、行われている活動やスペース利用は、可能な限り残す

●備蓄倉庫スペースの確保

現在の学校と変わらず、災害時にも食事の提供ができるよう今ある機能を引き続き確保する。

●地域図書室 兼 自習室

みんなの図書室として地域の方や子育て世代に開放。夕方は「いきいき」から帰ってきた子どもたちを保護者に受け渡せる場所へ。

●地域コミュニティスペース

「学校跡地検討会議」で、地域が活用したい教室等についての意見を聞いて決定。（例えば、地域の会議、祭り、現在の生涯学習ルームや学校体育施設開放事業など）

災害時における「みんなの学校」

日常的に利用できる学校でありながら、被災者の命と健康を守る避難所機能が確保された場とする



空き賃貸住宅等の
被災者提供に関する事業者との協定化

快適性の高い避難空間

教室内、校庭にテントなどを設置し、快適な避難空間の提供
トレーラーハウス等も活用



周辺への食事の提供

フードトラックを災害時にも活用し、必要な場所へ食事を届ける



避難空間での食事

給食室、フードトラックや大型の冷蔵庫の食材を活用し、温かい食事の提供

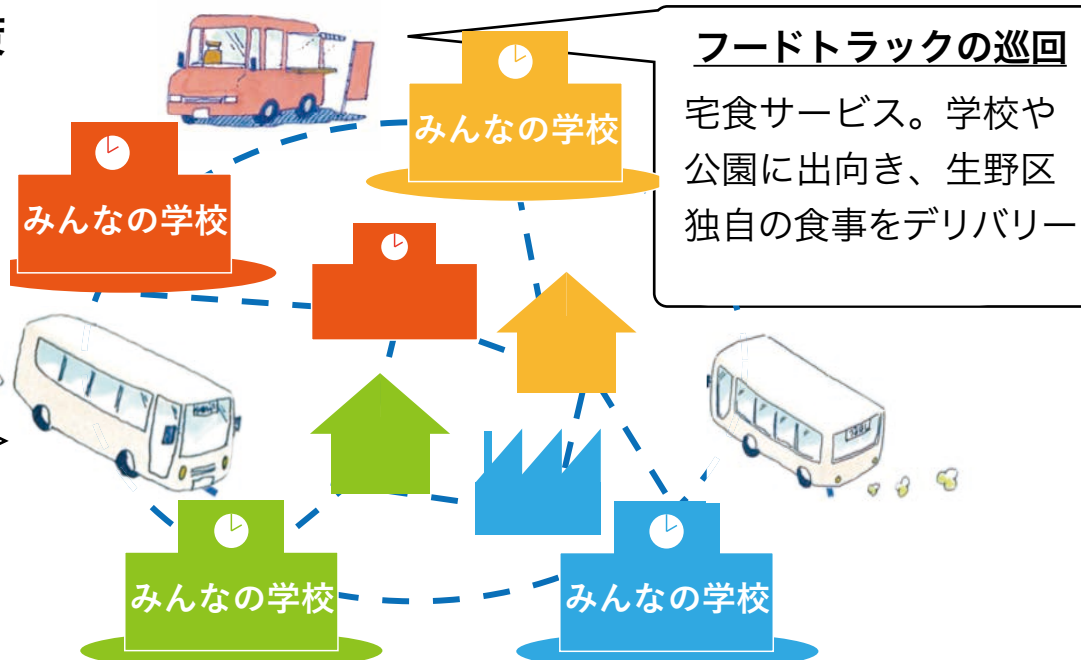


「みんなの学校」を拠点とした交通政策

みんなの学校を拠点とした交通ネットワークの構築区域をまたいで、区民の方がみんなの学校を使えるように、まちを循環できる交通ルートを整備

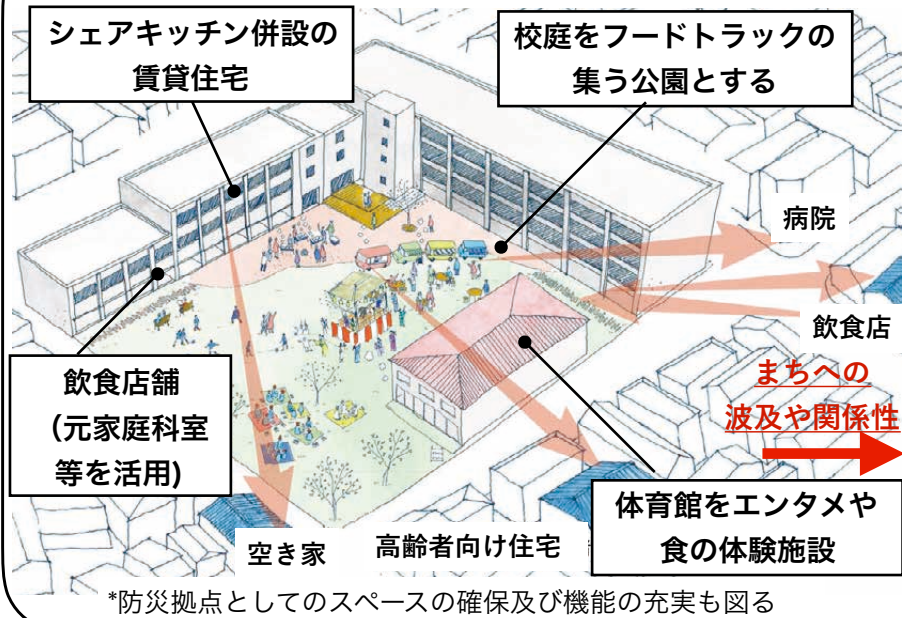
路線バスの巡回

みんなの学校だけでなく、そのほかの小学校や高齢者の住宅にも巡回



「みんなの学校」の校舎活用案と「まちぐるみ教育」への展開

CASE STUDY 01 世界のフードビジネスのスタートアップ学校 ～世界の食が集い、交わり、新たな食/職を生み出す発信拠点～



デリバリーサービス

- 学校跡地ではフードコートのように飲食・食物販の店舗が集積
- 周辺の高齢者向けの宅食・配食事業も展開



フードトラック

- 大阪、周辺のまちへの情報発信
- 料理人志望者が店舗を展開するチャンスを作る

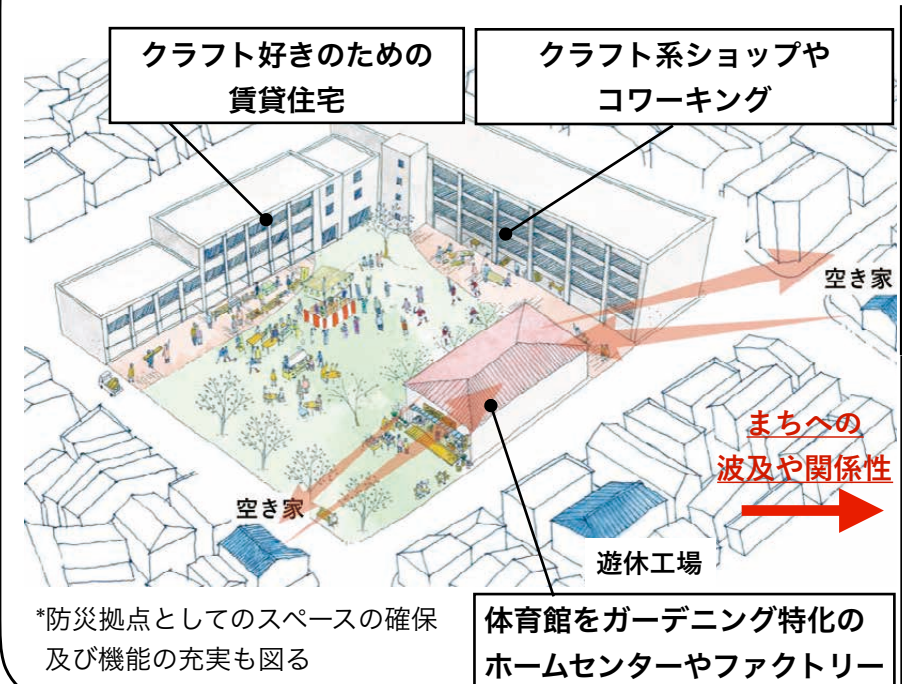


まちの飲食店との連携

- 留学生などの学生が、まちの飲食店などで働ける機会を提供する (職業訓練など)
- 料理人や経営者が、講師として学校跡地での活動に参加し、ノウハウの伝達や、働き手のリクルーティングを行う
- 食とVR等の新たなエンタメの開発



CASE STUDY 02 世代をつなぐ、ものづくり学校 ～生野のものづくりを、暮らしながら学び、自分でものを作れる拠点～



空き家の利活用

- DIYの暮らしに興味を抱いた人が移住
- 職人や地域の人と共にDIYを行い、家を作って居住する



空き家とファクトリーの連携

- 空き家に眠っている家具等を、一部ファクトリーでストックし、区民がリペアして自宅に持ち帰れる仕組みづくり

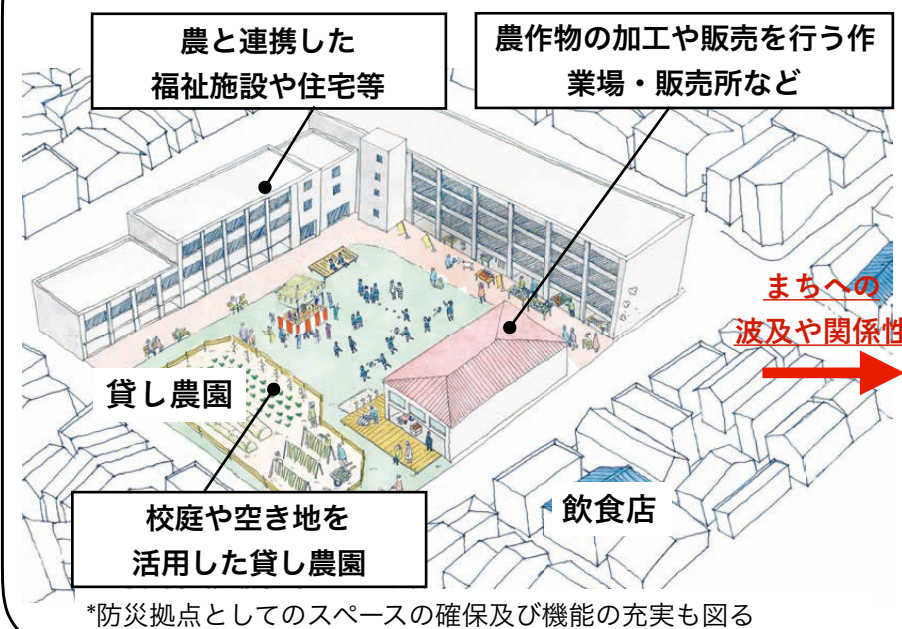


遊休工場の利活用

- 遊休工場・設備の情報を一元化し、活用できるよう整理する
- 活用されていない遊休工場を子どもたちやクリエイターがものづくりできる場所へ再生



CASE STUDY 03 未来の福祉を見据えた農業ビジネスの学校 ～高齢化社会における、健康関連産業の開拓～



周辺の飲食店との連携

- 飲食店の料理に合わせた野菜の栽培・販売
- フードトラックによる野菜販売



周辺の病院や高齢者施設との連携

- 未来の福祉につながる農作業によるリハビリ



周辺空き地を貸し農園として活用

- 空き地を貸農園や学習農園等として活用し、農業技術を持った高齢者の方や、子供や家族が野菜作りや植栽をできる場所へ再生



生野区リノベーションまちづくりプロジェクトについてはこちら→
 問合せ先：生野区役所地域まちづくり課 06-6715-9059

